学校番号	312

令和８年度　理科

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　科学と人間生活　（第一学習社）						
副教材等	自主作成プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ヒトが食事をしたり、服を着たり、交通機関を使ったり、情報機器を使うという日々の生活での「あたり前」のことは科学によって支えられています。
また、災害に対して科学的な見方をすることが身を守るうえで大切になってきます。
中学校までで学んだことをもとに、高校生として科学的な見方を養う授業です。
授業で学んだことだけでなく日々のニュースにも関心を持ち、視野を広げていきましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて知識を深める。
【思考力、判断力、表現力等】
自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考える。
【学びに向かう力、人間性等】
自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象を通して理解し、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得する。	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論知的に思考・判断し、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	科学技術の発展	・情報伝達技術の発展 ・エネルギー資源の活用と交通手段の発展 ・医療技術の発展	a:技術開発の歴史への知見を深める。 b:人間生活の豊かさと、それを実現した技術について、正負の影響を判断できる。 c:身近な科学技術の例を挙げることができる。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	授業観察 ワークシート パフォーマンス課題
	物質の科学	・材料とその利用 プラスチック、金属、繊維、食品	a:原子や結合、再利用について理解している。 b:素材の化学的性質の違いから、用途や利用方法について判断できる。 c:身のまわりにある物質について関心を示し、その種類、化学的性質、日常生活への利用方法について知識を習得しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	授業観察 ワークシート パフォーマンス課題
2学期	生命の科学	・微生物とその応用	a:身のまわりには多様な微生物が存在することを理解している。 b:医薬品への利用や、これからの微生物の利用について思考しようとする。 c:発酵や医薬品の製造に、微生物が役立っていることを考察できる。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	授業観察 ワークシート パフォーマンス課題
	熱や光の科学	・光の性質とその利用	a:光と電磁波の種類・性質に関する知識を習得している。 b:日常生活に利用される電磁波について意欲的に学習し、理解しようとする。 c:デジタルカメラを用いて赤外線を観察することができる。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	授業観察 ワークシート パフォーマンス課題

3 学 期	地球や宇宙の科学	・身近な自然景観と自然災害	a:火山活動や地震の発生のしくみ、自然災害について理解している。 b: 火山災害や地震災害、気象災害に関心を抱き、これらのおこるしくみや防災について理解しようとする。 c: 災害がおこるしくみから、防災の取り組みについて考察し、ハザードマップを調べることができる。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	授業観察 ワークシート パフォーマンス課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度